ROTARY CLUB OF HEKINAN WEEKLY

碧南ロータリークラブ週報

第２６１８回例会 平成２４年１１月２１日(水)

●会長 黒田 昌司
●幹事 木村 徳雄
●会場監督(SAA) 新美 雅浩

■例会日　毎週水曜日　12:30　■例会場　碧南商工会議所ホール
■事務局　碧南商工会議所内　〒447-8501　愛知県碧南市源氏神明町 90
TEL<0566>41-1100　FAX<0566>48-1100
ホームページ：http://www.hekinan-rc.jp
E-mail:info@hekinan-rc.jp
■会報委員　菅原優・鈴木泰博・服部弘史・大竹密貴

2012-2013 年度　国際ロータリーのテーマ

●斉　唱

ロータリーソング「今日も楽し」

●本日のメニュー

和風弁当　大正館

●本日のお客様

社会福祉法人 碧晴会　特別養護老人ホーム川口結いの家　統括マネージャー　齋藤　健様
岩倉ＲＣ　会長　浅野勝美君、河村金明君、宮田浩明君、 原　弘君、武藤栄司君

会　長　挨　拶

黒田昌司会長

衆議院が解散しまして解散モードに入っており、それぞれの党でマニュフェストを打ち出されております。世論調査で一番なのが、「景気雇用対策」であります。そして、１１月は、上場企業の中間決算が非常に多く、あまり業績が良くない企業が多く見受けられました。企業自身の責任ではありますが、企業がどうしようもない、対応が取りにくい部分もあります。六重苦というのがありまして、円高、法人税率、自由貿易協定の遅れ、労働規制、温暖化問題、電力の供給問題があります。

円高につきまして、国に合ったものであればいいわけでございますが、現在、果たして合っているのかなぁと思います。実際、本日の時点で８２円になっており、報道の予想では来年の３月に９０円ぐらいになるとなっております。

法人税率につきましては、税金という形で企業の社外流出が起き、内部留保がその分減り、将来への投資・分配が少なくなるという事でございます。

自由貿易の関係は、現在 TPP、FTA、などいろいろな所でやっておりますが、早く決断して頂きたいと思います。

労働規制に関しては、派遣の問題などありますが、企業に有利な方に対策を打ち出してほしいなと思います。

温暖化はCO^2の問題でございます。

また、電力問題では、九州電力と関西電力が共に値上げという報道があります。中部電力は上がっていないように思いますが、請求書で燃料調整費というのがあり、地震前はマイナス５０銭ぐらいで、今は、プラス１円ちょっとになっており、１円５０銭ほど上がっております。勝手に上げられてしまいました。

今年に入りまして、中国との尖閣の問題でごちゃごちゃしておりますが、それに併せて内閣府がこんな数字を発表しました。雇用保蔵４６５万人で、簡単に言いますと、社内失業の事でございます。率では８.５％です。失業率が４.２％で、合わせると１２.７％になります。アメリカの場合はすぐにクビにしますが、日本の場合はすぐにクビにはできないという事で、社内に抱え込んでいます。もし、これが社内で抱え込めなくなった場合、とんでもない数字になるのではないかと思います。

最近では４６５万人の内の、２０歳から３０歳までの社内失業が増えてきている、という報告があります。今までは、若手の教育をしっかりやっていたわけですが、今はやっておれないという事で、教育もなしにあれやれこれやれとなっており、若い人が何をやっていいか分からないという状況になっているわけでございます。その人達が何をやっているかと言うと、寝ているかパソコンで何かやっているそうです。

大手企業の話かと思いますが、我々中小企業も若手の教育をしっかりし、うまい方策を取っていかなければと思います。

幹　事　報　告

木村徳雄幹事

- 例会変更等は幹事報告書の通りでございます。
- 碧南高浜防犯協会連合会より、年末の安全なまちづくりの県民運動の実施についてのお願いがあります。１２月１日から２０日までございます。
- 先月、赤い羽根共同募金をお願いしまして、５１,０２７円集まりました。それに毎年、共同募金に７０,０００円寄付をしておりますので、残りの分を足して寄付をさせて頂きました。共同募金会長の平岩様よりお礼のお言葉を頂きましたので、ご報告させて頂きます。

委　員　会　報　告

＜出席奨励委員会＞

総会員数 69 名（内出席免除者 13 名の内出席者 7 名)出席者 52 名	
出席対象者　52／62 名	出　席　率　　83.87%
欠席者 17 名(病欠者 1 名)	前々回修正出席率　100%

※三週連続出席率 100%の場合は記念品を差し上げます。

＜ニコボックス委員会＞

黒田　昌司君　　岩倉ＲＣ浅野会長始めとする５名の方を歓迎致します。

伊藤　正幸君　　いいことがありました。

清澤　聡之君　　本日の講師、齋藤健君をご紹介致します。

鈴木　泰博君　　伊藤様と清澤様にお世話になりました。また、お願いします。

杉浦　栄次君　　ロータリークラブのゴルフ例会で優勝させて頂きました。ありがとうございました。

岩 倉 RC 会 長 挨 拶

浅野勝美君

岩倉 RC 会長　浅野勝美君

皆様こんにちは。地区内例会という事で本日お邪魔しております、岩倉ロータリークラブです。

我々のクラブは現在、１７名でやっております。４月時点で、地区内で３番目に少ないクラブになります。碧南ロータリークラブに来て、規模の違いに驚いている次第であります。岩倉市は５万人になかなか達しない街でありますが、地元の企業が会員数に比例する事はないと思っております。会員数が増えないのは、認知度が低いのではないかと思っております。市内の五条川沿いにある桜並木は、日本の桜並木１００選に選ばれております。この川のゴミを集めるプログラムを定期的にやっており、クリーンアップ活動をしておるわけです。この活動は地味ですので、もっと宣伝効果のある活動をしなければと思っております。防犯啓蒙活動の一環で、小学校に看板を取り付けさせて頂きました。防犯についての標語を箇条書きにして、警察や学校と協力しながらやりました。

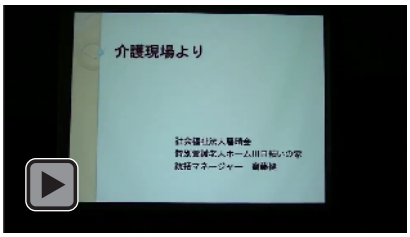
本日頂いた馬力をもとに、今後とも効果のある活動、そして、会員増加の見込める活動をしていきたいと思っております。

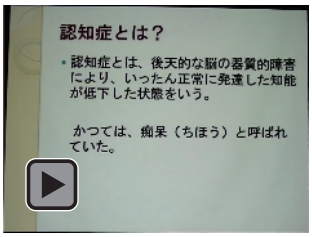
卓　　話

齋藤健様

「介護現場より」

川口結いの家　統括マネージャー　齋藤健様





普段何をやっているかと申しますと、雑務が多いです。本日も出勤して最初に、お風呂場のいすが錆びているというご指摘を頂いたので、ペーパーをかけておりました。続いて労務、会計、少しだけお話をするという事で、お話が慣れていないので、失礼があるかもしれませんが、お許し頂きたいと思います。

介護の現場よりという事で、介護の現場では大変困った事があります。何かと言いますと、現在の人口の表から２０６０年の人口推移の表を見ても分かる通り、少子化が進んでしまいま

す。介護の人員基準が２人に対して１人を配置する形となっていますが、２０６０年には人員不足になります。これが一番の問題になっています。

私は南の端にいるのですが、南の端には人が来ません。介護現場は本当に人が足りない状況でございます。この状態で厚生労働省がどのように政策をうっているかが一番の問題ではありますが、介護保険制度は平成１２年に制定されています。それまでは碧南市の措置という事で入居しておりました。平成１２年からは自分の好きな場所と契約をして入居できる形になりました。厚生労働省の一番の目的が、「個別ケア」でした。

そして平成１８年に、「予防ケア」を中心に考えておりました。これは、第一次ベビーブームの方が右肩上がりに高齢者になっており、介護が必要になる前に予防して施策していこうとなりました。介護保険料をアップして、予防に力を入れました。

そして平成２４年、６年毎に大きな施策がありますが、「地域包括ケア」が打ち出されました。今までは、医療だけ、介護だけと分けていたものを、連携づけようという事で、打ち出されたようです。在宅で介護できるような流れになっています。これは大変難しい事で、元々在宅で介護できれば皆様、しております。できないのでパンクしているのが現状ですが、国としては、人手不足を地域や家族で見守るという方向にもっていくのではないかと思います。

碧南市の高齢者率は１８％ぐらいで、全国的に見ると碧南市は若い地域となります。５０年後どうなるかと言いますと、４０％ほどになります。１００人いると４０人が６５歳以上となります。

要支援・要介護認定者の推移という事で、６５歳以上の方の、１４％ほどが要介護状態となります。碧南市の認定率は右肩上がりで上がっております。

また、要介護者の主な原因を碧南市で調査しましたら、一番多いのが脳梗塞などの「脳血管疾患」で、続いて「認知症」、次に「転倒・骨折」、「腰痛、ヒザの痛み」、「高齢による老衰」が続きます。血圧、動脈硬化、糖尿などに気をつけて頂けないと要介護状態になってしまう可能性があります。

介護を行う上で困っている事は何ですか、と聞いたところ、「心身への負担が大きい」がダントツで一番でした。他には、「時間的負担が大きい」、「経済的負担が大きい」などもありました。在宅では設備もないので、より心身への負担が大きくなるのではないかと思います。職員は教育を受けているわけですが、突然一般の方が介護するとなった際に、いわゆる心への負担も大きくなるのではないかと思います。

現在、人員的にもバランスが取れてしますが、今後人員不足が考えられますので、地域や家族へシフトしていくのかなと思います。しかし、地域や家族の方が介護できるのも限界があります。産業から介護へと移っているという話もありますが、全ての人が介護に向いているわけではありません。排泄物の処理等ありますが、ダメな方はやはりダメです。教育をしっかりやる必要があるかと思います。

話は変わりまして、認知症の話をしたいと思います。かつては、痴呆と呼ばれており、短期の記憶障害の事です。過去の出来事などを覚えているエピソード記憶、名前や色を覚えている意味記憶、技能などを覚えている記憶の３種類の記憶があります。過去の事は覚えているけど、最近の事は覚えていないというのが多いです。脳科学でも研究されており、決してあてずっぽ

うで行動しているわけではありません。

認知症の危険因子ですが、年齢、家族歴、動脈硬化などがあります。認知症を判断するために、長谷川式簡易知能評価スケールというものがあります。普通の方から見れば簡単な質問ですが、少しずつ出来なくなってしまいます。ただ、出来る事も随分ございますので、我々はその出来る事を見つけて介護の中でやっていきます。

普段心がけているのは、サービス業であるという事を徹底して指示を受けております。入るために待機者がたくさんいるのか、資金がいくらかかるのか、とご質問を受けますが、我々がやっている施設の料金は国が決めておりまして、５万円から１３万円ぐらいの間で、４段階に分かれております。待機者が大勢いると言われていますが、申込順ではなく、国が決めて指針順でございます。

ある女性の話ですが、西尾の中根町で生まれてお寺に嫁に来て、坊守をやっておりました。お寺の跡継ぎが早くに亡くなってしまい、６０歳になっても坊守がやめられず、８３歳までずっと続けていました。その間、息子と孫の朝ご飯を毎日作っていたわけです。８３歳の時に脳出血で倒れてしまいました。その後、認知症が少しずつ発症してきて、最初の方は時間が分からなくなり夜中の２時に鐘をついてしまうようになりました。朝の６時に鳴る鐘が夜中の２時になっているという事で、周りの方は驚かれたそうです。少しずつ認知症が進行してきて、息子や孫の顔を見ると食事したかと問うようになってきました。その女性は、毎日朝と夕方の食事を作っていたので、その事が気がかりになっていて、そのような状態になっていきました。更に進行していき、最後には会話もできなくなりました。現在は家族も分からない状態でございます。発する言葉は、南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏です。

認知症は、行動や言葉に意味があります。決して意味のない言葉を言っているわけではありません。その言葉に耳をかたむけて、意味を考えていくのが介護の仕事かなと思っております。

次回例会案内　平成 24 年 12 月 5 日（水）
年次総会　次年度理事役員選挙